

道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会
事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
北海道開拓記念館内
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

第42回北海道博物館大会 7月10・11日、枝幸町で開催

第42回北海道博物館大会および平成15年度北海道博物館協会総会を、枝幸町、枝幸町教育委員会、日本博物館協会北海道支部との共催で、枝幸町中央コミュニティセンターで下記のとおり開催いたします。多くの会員の参加をお待ちしております。

会期 平成15年7月10日(木)～11日(金)
会場 枝幸町中央コミュニティセンター
〒098-5807 枝幸町本町916
電話 (01636) 2-2148

大会テーマ 開かれた博物館をめざして

大会日程

7月10日(木) - 1日目 -

- ①受付 9:30～10:00
②開会式 10:00～10:30
1) 主催者挨拶 北海道博物館協会会長
2) 歓迎の辞 枝幸町町長
3) 祝辞 日本博物館協会会長
北海道教育委員会教育長
③平成15年度北海道博物館協会総会 10:30～11:15
④平成15年度北海道博物館協会表彰 11:15～11:25
・仙台藩白老元陣屋資料館友の会
・利尻町博物館協議会 会長 金田幹男氏
⑤特別報告 11:25～12:00
「日本博物館協会の主要行事と最近の動向について」

報告：(財)日本博物館協会
専務理事 五十嵐耕一氏

- ⑥役員改選結果報告 13:00～13:10
⑦特別講演 13:10～14:20
演題：オホーツク文化の謎を探る
講師：北地文化研究会 会長 北構保男氏
⑧シンポジウム 14:30～16:50
テーマ：開かれた博物館をめざして－地域との連携を探る－
司会 利尻町立博物館 学芸課長 西谷栄治氏
報告1 郷土学習とオホーツク文化
オホーツクミュージアムえさし
学芸員 高島孝宗氏
報告2 地域素材を財産に
名寄市北国博物館 業務係長 鈴木邦輝氏
報告3 上湧別町ふるさと館JRYの事例
上湧別町ふるさと館JRY学芸員 中島一之氏
⑨閉会式 16:50～17:00

7月11日(金) - 2日目 -

- ①施設等見学会受付 8:30～9:00
②施設等見学会 9:10～11:30
オホーツクミュージアムえさし、神威岬、目梨泊遺跡遠景ほか(11時30分散散予定です)枝幸町で皆様をお待ちしております。



目梨泊遺跡

第42回北海道博物館大会開催地 枝幸町

枝幸町は平成11年に開基120年、町制施行50年の節目の年を迎えました。「オホーツクミュージアムえさし」はこの記念事業の一つとして枝幸町郷土資料館を移設したものです。

枝幸町郷土資料館は昭和62年に開館して以来、多くの町民に親しまれてきましたが、施設の老朽化が進み、新しい生涯学習施設を求める町民の声が高まり、新しいミュージアムの開館へと至りました。

【オホーツク文化のふるさと】

枝幸町は町内に54ヶ所の埋蔵文化財包蔵地を抱える「遺跡の町」でもあります。中でも、オホーツク海沿岸を中心に独特の海洋狩猟文化を発達させた「オホーツク文化」の遺跡が数多く残されています。遺跡からは当時の生活を物語る様々な遺構、遺物が見つかり、その多くが当館に展示、収蔵されています。



【展示室の見所】

メイン展示となるのは「オホーツク文化の竪穴式住居」の復元展示です。館内に復元された竪穴式住居は全長9m、高さ4.5mという巨大なもので、広々とした内部空間を実感することができます。内部にはヒグマの頭骨を集積した「骨塚」やアザラシ皮製の衣服、刀剣類などを忠実に再現しました。住居内では見学者がオホーツク人の暮らしを体感できるよう、展示資料に自由に触れることができます。

常設展示室にはオホーツク文化の遺物以外にも北海道有形文化財に指定された擦文時代のホロナイボ遺跡出土品やアイヌ文化期の民族資料、明治時代に行われた日食観測に関する資料、枝幸砂金関係資料などが展示されています。

また、親子で楽しめる展示空間「子どもミュ

ジウム」では大きな土器を組み立てたり、昔の人の服を着たりと、自分の体を動かしながら郷土の歴史や文化に親しむことができます。

【郷土学習の拠点として】

ミュージアムの開館以来、枝幸町の郷土学習の拠点として様々な学習活動が展開されました。

オホーツク文化をテーマとした講演会活動や特別展、オホーツク人の土器作り体験教室などの事業に小学生から大人まで幅広い年齢層の町民が参加しています。特に目梨泊遺跡の学術発掘調査に連動して開催した体験発掘事業には、調査員の指導を受けながら、親子連れを中心に大勢の参加者が発掘調査を体験しました。

参加者は、自分の手で直接、郷土の歴史を掘り出す体験に新鮮な感動を受けていました。



【重要文化財「北海道目梨泊遺跡出土品」】

枝幸町北部にある「目梨泊遺跡」は、オホーツク文化有数の規模を誇る集落遺跡で、国道の移設工事に伴って発掘調査が実施されました。4年間に及ぶ調査の結果、多数の住居跡や墓壇が見つかり、約23万点に及ぶ大量の遺物が出土しました。

遺物の中には大陸製の装飾具や本州製の刀剣類などが多数含まれており、当時の人間集団の交流や交易の様子を示す貴重な資料として研究者の注目を集めました。

目梨泊遺跡出土品はオホーツク文化を代表する文化財としての評価が高まり、平成12年6月に出土品319点が国の重要文化財に指定されました。

この指定により宗谷管内初、そしてオホーツク文化の遺物として初めての重要文化財が誕生しました。当館では一人でも多くの方々にご覧いただくため全ての重要文化財を常設展示にて一般公開しています。

(オホーツクミュージアムえさし学芸員 高島孝宗)



石狩・後志・
空知地区
News

札幌市青少年科学館 の紹介

この春「宇宙・天文コーナー」と「移動天文車オリオン2世号」がリニューアルしました。

「宇宙・天文コーナー」は太陽系を中心に展示しています。なかでもプラネタリウム外周の直径20mドームを太陽に見立て、その縮尺で太陽系の惑星が一同に展示されています。2mもある木星の巨大さに比べ地球の大きさはと言うとバレーボール程度。冥王星に至ってはピンポン球サイズ！頭では大きさを理解していても、実際にはなかなか比較してイメージできないものです。宇宙のスケールの大きさに圧倒されます。その他、惑星の重さ比べ・惑星体重計・惑星サイクリングなどの体験コーナーがあります。

移動天文車は20年間活躍してきた「オリオン号」に代わり「オリオン2世号」になりました。従来とは違い地上に立ったまま望遠鏡を覗くことができ、見る人にやさしい構造となりました。さらに、車体横に装備されているプラズマディスプレイに



望遠鏡で捕らえている天体を映し出し、順番待ちの間に解説を聞くことができます。天候が崩れたときは録画してある映像を映すことも可能です。望遠鏡はコンピューター制御により、自動で目的の天体に向けることができるようになった他、主望遠鏡口径が25cmにアップ、太陽望遠鏡や人工衛星追尾望遠鏡も新装備、天然ガスエンジンなど環境にも配慮したつくりになっています。

宇宙については、まだまだ知られていないことが沢山あります。札幌市青少年科学館で宇宙の神秘に触れてみてみませんか。

(札幌市青少年科学館 須田真彰)

道南ブロック
News

平成15年前期の道南の 動きについて

道南ブロックの施設の話では、前号でもお知らせした今金町の「ピリカ旧石器文化館」が6月7日から一般公開された。163点の重要文化財をはじめ旧石器時代の生活をしのばせる石器を展示するほか映像コーナーや体験学習室がもうけられている文化館のほか、別棟の石器製作跡では実際の発掘現場を樹脂で型取りをして再現しており訪れた人たちも感心していた。開館時間は9時30分から午後4時30分までで月曜日と祝日の翌日は休館。入館料は大人200円、小中高校生は100円。

また、道立函館美術館で4月上旬から開催していた「木とのふれあいワールドパート2」が入館者数歴代6位の好記録で6月1日に終了した。昨年度の入館者が過去最低を記録し、入館者の低迷に悩む中、幅広い年齢層が楽しめる企画内容や幼稚園や小学校へのPR活動に力を入れるなどの努力がむくわれ、50日間で延べ2万人が訪れた。入館者の伸び悩みに苦しむ多くの館にとっても参考になる事例。

江差町の郷土資料室では4月1日から6月15

日まで「利宝丸—江差の北前船—」と題した企画展を開催。北前船の歴史や江差の北前船「利宝丸」の活動についてわかりやすく見せる展示。月曜日と祝日の翌日が休み。料金は無料。

七飯町歴史館では5月27日から7月31日まで「なるほど・おもしろグッズ展」を開催。アイスクリーム製造機や手動洗濯機など、最近目にしなくなった、どこことなくユーモラスな道具や仕組みなどを歴史館収蔵資料の中から紹介する歴史館収蔵資料展。月曜日と祝日の翌日が休館。

市立函館博物館では6月3日から8月24日まで特別企画展「函館山—過去、現在、そして未来へ—」を開催。観光としてあるいは自然観察の生きた教材として活用されている函館山の時代ごとの様相を絵図や写真、古文書そして標本などで展示し紹介。

道南ブロック博物館施設等連絡協議会の話題では、5月28日に上ノ国町総合福祉センター「ジョイじょぐら」で役員会を開催し、平成15年度の総会及び研修会について協議した。総会は8月26日(火)・27日(水)に上ノ国町で開催することとなった。

(知内町郷土資料館 学芸員 高橋豊彦)

日胆地区
News

イオル構想を事例に 社会的貢献のあり方探る 日胆地区連絡協議会の 総会・研究協議

「ミュージアムの社会的貢献～白老町におけるイオル構想の策定過程を通じて～」これは、6月6日に穂別町立博物館で開催された日胆地区博物館等連絡協議会の平成15年度定期総会終了後に行われた研究協議における基調講演のタイトルで、講師は白老町にある財団法人アイヌ民族博物館の中村齋館長でした。中村館長は、青年期の進路選択に決定的影響を受けたご自身の博物館体験の紹介を皮切りに、これまで追求してきた理想のミュージアム像と、それを具現するための豊富な実践経験を語られました。とりわけ、一番最近の事例として「白老中核イオル整備構想」策定に関わった経緯や、その過程で得られた成果や明らかになった課題、教訓などについてユーモアを交えながら馴染みやすく述べられました。

イオルは、アイヌ民族の「伝統的生活空間」を表す概念として用いられており、現代の「イオル構想」は、今日的な環境をふまえてこれを再構築

することにより民族文化の継承・振興の基盤にしようとして提唱され、実現に向けた取り組みが進んでいます。日高・胆振支庁内では、白老が「中核となるイオル」、平取と静内が「地域のイオル」と位置づけられており、各々から最近の動向等について報告や質疑応答等がなされました。研究協議の全体テーマは、「ミュージアムとマチづくりの正しい関係」でしたが、日胆地区業界内でのもっともホットな問題の一つであるイオル構想を題材に、有意義な意見交換ができたと思います。

これに先立つ総会では、平成14年度活動実績報告・決算を承認、平成15年度活動計画・予算については事務局提案をもとに論議により内容を具体化、全員の了承を得て確定しました。

また、任期満了による役員改選が行われ、新しい体制となりました。従前の申し合わせで日高地区、胆振地区より各々交代で会長、事務局長を選出することになっており、苫小牧市博物館・吉田国吉館長に替わって様似町郷土館・水野洋一館長が新会長に、二風谷アイヌ文化博物館・吉原秀喜に替わって白老元陣屋資料館の武永真学芸員が新事務局長に就任しました。なんとか無事にバトンタッチができそうで、ほっとしています。

(平取町立二風谷アイヌ文化博物館 吉原秀喜)

わりについての事例報告・総合討論、2日目は巡検を実施する。

●十勝管内博物館学芸職員等協議会

総会および講演会が5月14日、北海道立帯広美術館を会場に開催され、研修会の開催や、協議会十周年記念事業として「とちの博物館・美術館スタンプラリー」を新規に実施することなどが決まりました。

平成15年度学芸職員等研修会は帯広大谷短期大学(音更町)を会場に、11月18～19日の日程で、「博物館と大学(仮)」をテーマとした基調講演とシンポジウムを1日目に、十勝エコロジーパークの巡検を2日目に実施する予定です。

また、総会終了後には、浅川泰氏(北海道立帯広美術館副館長)を講師に、「ミュージアムと編集」というテーマの講演会を開催しました。

両協議会に関するお問合せは、事務局(帯広百年記念館)までお願いいたします。

(帯広百年記念館 北沢 実)

道東3管内
News

十勝・釧路・根室の 博物館情報

十勝・釧路・根室管内、23の博物館施設等で構成する道東3管内博物館施設等連絡協議会、十勝管内の博物館職員等で構成する十勝管内博物館学芸職員等協議会の平成15年度総会が相次いで開催され、それぞれの新年度事業などが決まりました。

●道東3管内博物館施設等連絡協議会

総会は5月21日に釧路市立博物館を会場に開催。15年度事業のうち、博物館交流推進会議は、「自然再生と博物館(仮)」をテーマに次の内容で開催することが決まりました。

日時：10月8日(水)～9日(木)

会場：憩いの家茅沼(標茶町茅沼)

内容：1日目は、釧路湿原を中心として展開される自然再生事業についての基調講演と、エコツーリズムや自然再生と博物館の関

網走管内
News

北見ハッカ記念館に新館 「薄荷蒸溜館」オープン



薄荷蒸溜館全景

平成14年12月10日、北見ハッカ記念館に並んで新しく薄荷蒸溜館がオープンした。外観は板張りの壁、段違いの屋根で往年の薄荷蒸溜小屋をイメージさせる造りとなっている。館内に入ると、天水釜、箱せいろ、田中式蒸溜機を中心にハッカ関係の農機具等が展示され、正面の柵ではハッカ草がさわやかな香りを漂わせている。

平成15年6月からは、小型蒸溜機によるハッカ蒸溜実演が毎日行われ、生まれたてのハッカに香りを体験できる。昔ハッカに携わった人には懐かしさや当時の思い出を、初めての人にはハッカが油を採るための作物、という新鮮な驚きを呼び起こしてもらえればと考えている。

往時の勢いはすでに失ってしまったが、地域発展の大きな原動力であったハッカを、より多くの人に知ってもらい、さらに新しい魅力を探っていく博物館として育てていきたい。

(北網圏北見文化センター 担当 太田敏量)



蒸溜実演のようす

美術館
News

平成14年度北海道美術館 学芸員研究協議会報告

第11回目となる総会・研究協議会が、平成15年3月6日と7日の両日、北海道立近代美術館で開かれた。23館1大学59名の会員のうち1日目は50名、2日目は47名の参加であった。

まず最初に開かれた総会では、新たに特別会員を置くことなどを含む新規約及び新役員が承認され、これに続く研究協議会から新体制で行われた。

今回の研究協議会のテーマは「美術館と大学」である。ともに美術を研究していながら、これまでほとんど協力し合うことがなかった両者がいかに手を結んでいくかを探ろうとするものである。北村清彦氏（北海道大学文学部教授）の講話では、世界的に見られる両者間の芸術に対する根本的な解釈のちがいを指摘したうえで、大学における芸術科目の意義、提携の有効性と展望が提議された。続いて北海道立近代美術館の事例として井内佳津恵学芸員より、平成15年度に予定している北海道大学との授業連携や、ミュージアムスクールにおける学生ボランティアの導入が報告された。こ

れに対し他のほとんどの美術館では、博物館実習が大学との数少ないつながりとなっている。続く夕張市美術館の源藤隆一学芸員からの報告では、実習生の意識の低さや評価規準の曖昧さが指摘された。また、事前に行ったアンケートの集計結果でも、小規模館では負担が大きすぎることや実習生の質を問題視したものが多くあった。意欲のある実習生を得るために、大学からの要請を一方的に受け入れるのではなく、事前に美術館側がレポートを課している例なども報告された。

2日目は、仲野三郎氏による「北海道の野外美術館の現状と問題点」と題した特別講話を行った。北海道各地を巡り野外彫刻を数多く写真に収める活動を続ける仲野氏は、独自の視点からの分類をスライドを交えて話すとともに、作品の所在調査への協力と作品メンテナンスの必要性を訴えた。

また、全体討議として、所蔵品における著作権の扱いや独立行政法人化の問題のほか、メールマガジンの活用などについて話し合われた。

(芸術の森美術館学芸員／研究協議会幹事・吉崎元章)

新館オープン 鯨御殿とまり

○オープンまで

泊村のニシン漁は明治時代に全盛期を迎え、鯨御殿と呼ばれる豪華な屋敷が建ち並ぶようになりました。

当時の繁栄を現在に伝える二つの建物「旧川村家番屋」「旧武井邸客殿」は平成12年までに同じ敷地内に移築・復元され、平成13年4月27日、それぞれ泊村の有形文化財に指定されました。翌日から両者を併せ「鯨御殿とまり」として一般公開しています。

展示の準備は主に前年度に実施しましたが、旧泊村郷土館の資料だけでは足りず、何が必要かを検討し「物品の寄贈のお願い」というチラシを村内に配布し、積極的に資料収集を行いました。また、粗大ごみの収集日にステーションをまわって展示に使えるものを拾い集める、ということもしました。

資料の単純な陳列ではなく、資料を当時の生活場面の再現に生かそうという方針で準備を進めました。

○展示

明治27年に建てられた「旧川村家番屋」は、経営者川村慶次郎の住宅と出稼ぎ漁夫宿舎を兼ねたもので、移築工事前の平成11年夏までは泊村郷土館として公開していました。現在の「鯨御殿とまり」の前身です。

玄関から奥に伸びる土間を境に、右側が親方の住まいであり、広い座敷には全体を説明するピデ

オコーナーを設置しています。また、まわりの座敷は古いミシン、蓄音機、茶ダンスなどで昔の生活を再現しています。陶磁器や漆器の展示室もあります。

土間の左側は出稼ぎの漁夫のためのスペースで、囲炉裏の前に偉そうに座っている「船頭さん人形」があるため、記念撮影の人気スポットです。

開館2年目の平成14年から、2階の大広間や「隠れ部屋」も公開しています。ここは火鉢、食器、着物、電蓄、屏風など様々な時代の資料の展示室です。

大正時代の建築である「旧武井邸客殿」は、武井忠吉によって建てられた豪勢な漁場建築の一部です。大広間を中心に、人形などで「商談」「祝宴」それぞれの場面を再現しています。建造物としての見せ場は、埋め木の美しいケヤキ材の廊下、透かし彫りの欄間、便所の唐傘天井など、意匠を凝らした装飾です。

また、客殿につながる蔵は、漁場の復元図、ニシンの漁法・加工法などの解説パネル、漁具、加工用具、古文書などの展示室です。入口の厚い扉、独特な天井の骨組みなども見せ場です。

所在地：古宇郡泊村大字泊村59-1

電話0135-75-2849（管理棟）／0135-75-2311（教育委員会）

観覧料：大人300円、小中学生200円、団体20名以上100円

休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌日）、12月～4月中旬

開館時間：9：30～16：30

（泊村教育委員会 主事補 大谷 武史）



旧川村家番屋・内部



旧武井邸・蔵の漁具展示

館・園の主な展覧会と普及事業

(2003年6月～2003年10月)

石狩

江別市セラミックアートセンター(011-385-1004)7.5～8.10(仮称)「陶のかたち」展、8.23～9.14 陶&くらしのデザイン展2003北海道展、9.20～10.12 収蔵品展「(仮称)長畑鎮の16年」、10.18～11.3 江別陶芸会展

札幌芸術の森美術館(011-591-0090)7.5～8.31 レームブルック展、9.7～10.19 阿部典英展、10.26～1.18 北の創造者たち2003—虚実皮膜

札幌市豊平川さけ科学館(011-582-7555)7.13 星置川さかなウォッチング、7.20 豊平川さかなウォッチング、7.27 琴似発寒川さかなウォッチング、9.28、11.9・16 親子採卵実習、10.5 子供採卵実習、10・11月 中採卵実習(団体受付)、10.12 琴似発寒川サーモン・ウォッチング、10.19 豊平川サーモンウォッチング、10.26 星置川サーモン・ウォッチング、9.28～11.23 サケの産卵行動

石狩市教育委員会文化財・博物館開設準備室(0133-72-6123)6月(予定)の土・日 あるく博物館、7～8月の土・日 縄文土器をつくろう、8月(予定) ちいさな博物館(展示)

北海道開拓記念館(011-898-0456)6.27～8.17「北・貝・道・海と陸と人びと」、9.11～11.3「北海道の基層文化をさぐる—北から南から—」

北海道開拓の村(011-898-2692)8.1～31 開村20周年記念展示「版画で見る開拓の村展」(8.10・24 版画を体験してみよう)、8.16・17 開村20周年記念事業街頭芝居「北海道開拓物語」、8.30 むらの講演会「北海道における馬産の展開—馬社会の形成過程—」、10.18・19 博物館ボランティア体験講座、10.25 むらの講演会「北海道と福島県との人・モノの交流」

北海道立文学館(011-511-7655)6.17～7.3 木版の詩人・川上澄生と北海道—没後30年・出版物に見るその世界—、7.12～8.24 生誕100年記念「林美美子展」、8.30～9.13 大いなる遺産から—和田徹三、長光太、近藤潤一3氏を偲ぶ—、9.20～10.12 あらしのよるに—あべ弘士 絵本原画展—

北海道立近代美術館(011-644-6881)6.6～7.13 安田侃の世界—天にむすび、地をつなぐ—、7.25～8.31 大トルコ展—文明と美術—、9.6～15 北海道立体表現展'03、9.18～28 アジアプリント アドベンチャー2003、10.3～11.16 北の巨匠 岩橋英遠・片岡球子展

北海道立三岸好太郎美術館(011-644-8901)5.31～8.31「全所蔵作品展示計画①水彩・素描編」、9.6～10.26「北海道の水彩画」

札幌市博物館活動センター(011-200-5002)7.19～8.31 第9回ミュージアム企画展「水草の浮いている生活」展、6.21 化石採取会、6.22 水生昆虫採集会、7.25 化石クリーニング体験、10月中旬予定秋の植物観察会

渡島・檜山

市立函館博物館(0138-23-5480)6.3～8.24「函館山—過去・現在、そして未来へ—」

市立函館博物館五稜郭分館(0138-51-2548)7.26～9.30「箱館海戦記—海と陸、箱館戦争と軍艦—」

北海道立函館美術館(0138-56-6311)6.10～7.21 イン／プリント—プリティッシュ・アートの新たなヴィジョン—、7.29～9.23 生誕120年記念「ユトリロ展」詩情と哀愁—パリの街角、9.30～11.16 近代詩文書作家協会創立30周年記念「詩歌と書の世界」

大船遺跡発掘展示室・南茅部町福祉センター(01372-2-3789)9.5～10「北海道のうるし文化」(主催:北海道開拓記念館)

江差追分分館(01395-2-0920)4.27～10.31 江差追分の実演

後志

(財)北—ヴェネツィア美術館(0134-33-1717)4.23～6.30「自然の神秘とヴェネツィアガラスの奇跡」、7.1～10.2「レースガラス展」

(仮称)、10.3～1.14「ヴェネツィアガラスの芸術展」(仮称)

小樽市青少年科学技術館(0134-22-0031)7.25～8.17 おもしろ体感!いろいろな世界、8.1～7 プラネタリウム特別投影

おたる水族館(0134-33-1400)7.28～30、8.4～6 水族館体験隊、7.31～8.2、8.7、8 磯の生物観察会、7.27、8.3 親子で参加魚拓教室、9.13～10.31 秋の特別展、9.6～11.24 バックヤードツアー、9.23～10.5 全道幼児児童動物画コンクール入選作品展

木田金次郎美術館(0135-63-2221)7.2～10.29 天成の画家ふたり—北での出会い「木田金次郎と野口彌太郎」展、6.14～7.13 木田金次郎生誕110年記念「木田金次郎をめぐる人々」、7.16～8.17 しりべしミュージアムロード4館共同「妙技拝見」展—色紙・箱絵・挿絵・絵皿—、9.6～9.23 第9回「ふるさとこども美術展」、7.13 第9回木田金次郎生誕祭

黒松内町プナセンター(0136-72-4411)7.12・9.13・10.11 わくわく土曜日ランド、8.24 おとなりのプナ林、9.28 1日500万の旅、4月～10月 花ごよみ調査、9月～11月 プナの実調査、10.5 黒松内自然科学奨励事業

小川原脩記念美術館(0136-21-4141)5.8～7.13「題名のない展覧会—3」、7.16～8.17「4館共同展」、8.20～9.15「第45回龍彩会展」、9.18～10.19「龍彩会の作家たち3—穂井田日出展」、10.22～11.24 龍彩会の作家たち4—谷口芳展」

小樽交通記念館(0134-33-2523)5.17～7.21 タクシー・ハイヤー今昔展

西村計雄記念美術館(0135-71-2525)5.10～9.15「あそびゴコロ」展、画業を辿る展覧会「(仮)大洋のあるまち」展、7.16～8.17 ミュージアムロード共同企画展(タイトル未定)、8.12～9.15 夏休み!自由研究応援隊報告会、9.20～1.18 三周年記念展「(仮)西村計雄のヨーロッパ紀行」、6.29 生誕記念日トンネル餅サービス、8.23 ほしぞら映画会、9.21 きょうわ収穫祭、10.25 開館記念コンサート

空知

砂川市郷土資料室(0125-52-2339)10.4～11.3 雑誌で見る大正・昭和

滝川市美術自然史館(0124-23-0502)7.11～8.17 一木万寿三と滝川の画家たち展

美唄市郷土史料館(01266-2-1110)7.18～9.7 第57回特別展「湿地と宮島沼」

星の降る里百年記念館(01242-4-2121)7.6～7.13 パッチワークキルト展、8.4～8.30 房川比呂志バードカービング展、9.2～9.15 杉山栄治・澄子二人展(写真)、10月(未定) 芦美会展、10月(未定) 芦別市制50周年展、8.10 バードカービング作り

三笠市立博物館(01267-6-7545)7.26、8.2、3 自然観察講座「アンモナイトの化石の観察」、9.13 自然観察講座「きのこの観察」

上川

旭川市博物館(0166-69-2004)8.31～9.28 開館10周年記念企画展「カムイコタン」、10.12～11.30 アイヌ工芸品展

旭川市青少年科学館(0166-22-4171)7.23～8.24 あそんでためそう!七つの体験感覚ひろば、9.2～10.19 科学市場

層雲峡ビジターセンター(01658-9-4400)6月より毎土曜日開催スライド上映会、7.13 観察講座「ウスバキチョウと高山植物」赤岳、8.10「高層湿原」沼ノ原、9.14「大雪山の生い立ち」黒岳

中川町エコミュージアムセンター(01656-8-5133)7.1～8.17 南北・白亜紀物語「恐竜たちがやってくる」(仮称)、9.2～9.28「白き山のころ—大石田と斎藤茂吉—」(仮称)

中原悌二郎記念旭川彫刻美術館(0166-52-0033)7.5～10.5 舟越保武展、10.11～12.14 あさひかわの彫刻家 神田比呂子展、6月下旬頃 札幌彫刻散歩、7月下旬～8月上旬頃 親子の彫刻教室、10.4 第33回中原悌二郎賞贈呈式

富良野市博物館(0167-42-2407)7.18～31「幻のカワシンジュガイを探る」、7.20 シンポジウム・自然観察会「幻のカワシンジュガイを探る」、8.20～10.19 富良野市開庁100周年記念事業「富良野100年の歩み」、9.18 見学会「秋の富良野文学散歩」、9.23「キノコからみ

た富良野の森」,9.28 自然観察会「紅葉を楽しもう」,10.15 見学会「博物館・美術館めぐり」

峠の小さな博物館貝の館ウッディ・ライフ(0167-45-6810)海からのおくりもの・さくら貝の歌 八州秀章先生の生涯、6月 カワシンジュガイの生息観察会、8月 自然フォーラム(カワシンジュガイ)の報告と講演

留萌

増毛町総合交流促進施設 元陣屋(0164-53-3522)8.5~8.24 「増毛町の史跡」(仮称)

留萌市海のふるさと館(01644-3-6677)7.19~8.24 第15回特別展「ニシン漁の船」、7.4 サンセットコンサート、6.29 夏の自然観察、7.12 特別観察会、8.3 磯の観察会、10.26 秋の自然観察

網走

博物館網走監獄(0152-45-2411)6.29 「ワークショップ農園体験」、7.27 「夏休み虫かごづくり」、8.3 「染色体験」、9.7 「ワークショップ農園体験」

美幌博物館(01527-2-2160)6.8~7.13 寄贈資料展、7.27~10.26 北海道ゆかりの作家たち~美幌博物館収蔵作品からpart 2、7.27~8.20 ハーブ展、10.7~11.9 明治・大正・昭和・平成の農作業風景

北海道立北方民族博物館(0152-45-3888)7.6 アイヌの調べ~OKI(オキ)・トンコリコンサート、7.19~9.28(7.26講演会) 第18回特別展「先住民社会と水産資源:サケ・海獣・ナマコ」、10.4~10.26 発掘速報展、10.18,19 第18回北方民族文化シンポジウム「北太平洋沿岸の文化:文化接触と先住民社会」

上湧別ふるさと館 J R Y (01586-2-3000)8.5~7 体験学習七夕、10.11,12 宿泊体験、10.31 文化シンポジウム

北網走北見文化センター(0157-23-6700)6.25~29 第20回北美展、7.19~8.24 ヨーロッパ7大巨匠版画展、8.27~9.5 夏休み作品標本展、9.3~7 第50回写真道展北見移動展、9.13~28 第41回オホーツク美術展、10.1~5 第56回市民芸術祭(①書道・写真、10.8~12 ②美術、10.15~19 第49回きたみ成美会展、10.22~26 第56回市民芸術祭 ③小中生・美術・書道

紋別市立博物館(01582-3-4236)7.11~13 平成15年度アイヌ工芸作品コンテスト巡回展、9.9~15 焼き絵作家竹内一躬作品展、10.4~11.3 独立行政法人国立博物館巡回展

胆振

苫小牧市科学センター(0144-33-9158)8.1~31 特別展「恐竜展」

苫小牧市博物館(0144-35-2550)7.26~8.31 特別展「川上澄生の世界~南蛮文化・文明開化・苫小牧」(仮称)、7.30 見学会芸術探訪、8.8 発掘体験と地層観察会、8.16 映画会

登別市郷土資料館(0143-88-1339)6.28 親子そば打ち体験、7.12 笹舟あそびとソーメン流し体験、7.30,31 夏休み工作教室、8.23 絞染め体験、9.13 資料館の日「片倉家の移住」、10.11 資料館の日「幌別鉱山」、10.25 ふくろう壁掛づくり体験

日高

静内町郷土館(01464-2-0394)6月 しずない歴史散歩、7月~8月 おやこ塾、8.1~31 (仮称)「化石」展、10月~12月 静内町郷土館講座

平取町立二風谷アイヌ文化博物館(01457-2-2892)7.12 シシリムカイオル文化大学講座、9.21~1.18 記録映画上映会の開催

日高山脈館(01457-6-9033)日高山脈ネイチャーセミナー2003 6.28,29 「山に登ろう」、7.21 「川で安全に遊ぶために」、8.31 「化石をさがそう」、9.23 「森を歩こう」、10.4 「縄文時代の生活を体験しよう」

十勝

おびひろ動物園(0155-24-2437)6.29 1日飼育係(高校生以上)7.12,13 開園40周年記念無料開放・イラスト教室、7.13 俳句教室・ネイチャーゲームツアー、7.20,21 おやこ動物園教室、8.1~3 よるの動物園、8.1~17 特別展「草を食べる動物」、8.30 1日飼育係(小5~中3)、9.20 1日飼育係(小3~4)、10.5 1日飼育係(高校生以上)

帯広百年記念館(0155-24-5352)7.1~21 書道展~和みの世界へい

ざなう、7.6 アイヌ語で自然観察、7.12 手形の皿を作ろう、7.19 葉皿を作ろう、トーテムポールの人びと、7.27 剥製作りを体験する、8.3 植物標本作り、8.16 百年記念館を探検する、8.22~9.15 十勝の植物標本展、8.24 原生花園ウォッチング、9.6 親子七宝教室、9.12~17 前期陶芸講座修了作品展、9.20 レコードと音の文化史X、9.21 十勝歴史探訪、10.7 後期陶芸講座開講、10.18 近代の十勝アイヌの活動、10.24~11.3 陶芸サークル展

神田日勝記念館(01566-6-1555)6.17~29 「人を描く」展II、7.19 馬の絵写生会、8.6 子どもワークショップ、8.9~17 石川文洋報道写真展、8.24 第11回馬耕忌、8.23~10.30 室内風景を中心に(仮)、9.20 親子ワークショップ、10.11~19 第9回馬の絵作品展、10.19 芸術鑑賞バスツアー

北海道立帯広美術館(0155-22-6963)4.4~8.5 ひがし北海道:美の回廊、5.30~8.5 ヴェネツィアの光と影-ルネサンスからバロック、8.15~11.12 十勝の新時代VI渋谷栄一展・帯広美術館コレクション選集-現代版画/ヨーロッパのポスター

本別町歴史民俗資料館(01562-2-2141)7月~8月 郷土資料館と地域のかかわり、7.15~8.22 わが町の7月15日展~軍馬の記録とともに、10月 郷土作家と語る、10.1~11.14 書道具体験展

釧路

釧路市立博物館(0154-41-5809)6月下旬~7月中旬 釧路市・鳥取市のあゆみ、7.13~8.17 「海の生きものたち」、7.26 磯の生きもの、7.27 昆虫の名前を調べる会、7.31 体験講座せんべいをつくろう、8.3 夏休み親子土器づくり教室、8.8 化石レプリカ教室、8月下旬~9月上旬 おさかなセミナー くしろ2003パネル展、9.20 第14回博物館まつり、10月~11月 開館20周年記念特別展「私に1枚の写真」、10月 ミュージアムコンサート「チェロの夕べ」

標茶町郷土館(01548-7-2332)6月 仮称「プチフラワーソン」、7月 仮称「軍馬山の水源池探検」、7月~8月 仮称「続、アイヌ文様刺繍講座」、10月 「標茶の粘土で土製品を作ろう」

北海道立釧路芸術館(0154-23-2381)6.22~7.21 <<生誕120年記念>>コトリ口展、7.12 アートシネマ館上映会「真田風雲録」、7.30~9.7 ももちゃん芸術祭ワオ!、9.20~11.24 草間彌生展

根室

中標津町郷土館(01537-2-2190)7月中~下旬 コウモリ観察会、8月 クテクンの森E X、8月上旬 クテクンの滝探検夏

役員異動

新年度の人事異動等により役員の交代があり、次の方が新役員に就任されました。

副会長 工藤剛氏(北海道立近代美術館副館長)

監事 後藤誠二氏(旭川市博物館館長)

新入会員の紹介

平成15年度、次の個人・賛助会員が加入しましたのでご紹介いたします。

・個人会員 長川晴悦氏(七飯町)、森勇二氏(札幌市)、濱壱静子氏(札幌市)、中山朝之氏(北広島市)、中山英子氏(北広島市)

・賛助会員 (株)ウェザーコック(札幌市)

平成15年度事務局体制

(事務局長)山田悟郎、(事務局次長)笹木義友・小林幸雄、(事務局員)林昇太郎・添田雄二・鈴木琢也

会費納入のお願い

平成15年度の会費の納入をお願いいたします。北海道博物館協会の事業は会員から納入されます会費で運営しておりますのでよろしくお願いいたします。